

特55

850

神事詞

神習教管長正七位芳村正秉編纂

全

014188-000-5

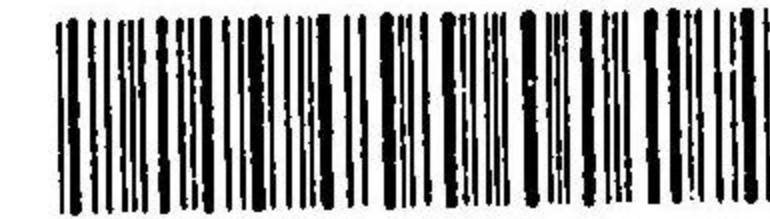
特55-850

神事詞

芳村 正秉/編

M19

ABB-0505



神事詞

明治十九年九月二十四日内務省交付 123

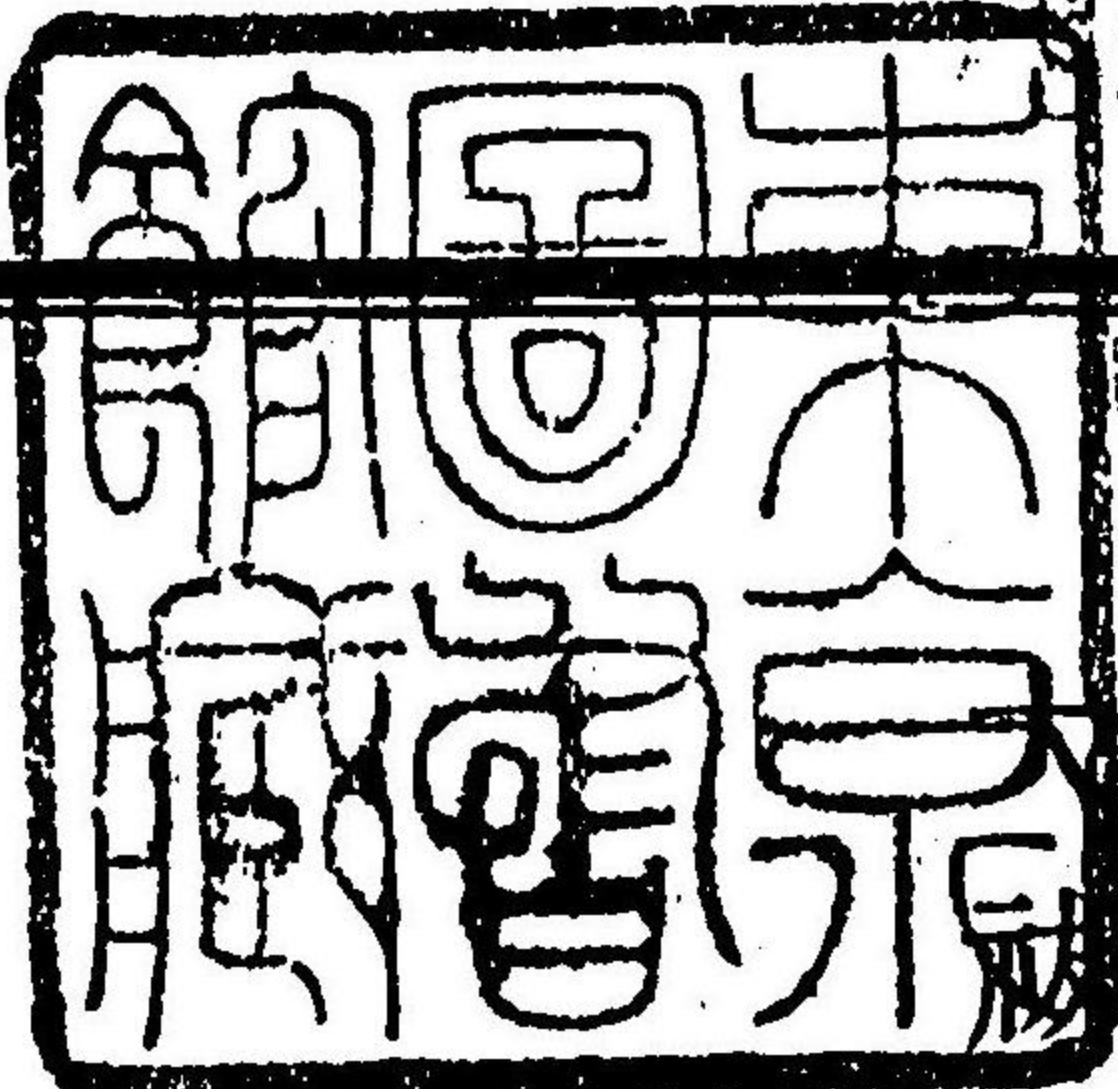
目次

神拜心得

造化詞

太諄辭

身禊祓詞



特 55
50

神拜心得

神明を拜はる時。必倭姫命の左
物誥に通り心得。而る後仕へ奉
る可し。依なき時は。神明の感格を
無たれ。此と思ふ可し。仍て先神拜
式の始に之を掲ぐ。

天磐戸 乃の 鑰預賜 利 取。無黒心 志 取。以

丹心 天 清潔 齋慎 左物 不_レ移_レ右



神拜心得
神明を拜ひる時を。必倭姫命の左
物誥に通り心得而る後仕へ奉
る可し。はなき時は。神明の感格を
無たれ此と思ふ可し。仍て先神拜
式の始に之を掲ぐ。

天磐戸 乃 鑰預賜 利 無黒心 志 以

丹心 天 清潔 齋慎 左物 不 移 右

右物 不 移 左 志 左 左 右 右 左 返 右

迴事 萬事違事 久 志 大神奉仕

造化詞

吐普加美依美多米祓 開 給 比 清

米 給 布

太諄辭

加美奈賀良

身禊祓詞

高天原 神 留 坐 須 神 魯 岐 神 魯

美 乃 命 以 皇 御 祖 神 伊 耶 那 岐

命 筑 紫 日 向 橘 乃 小 戸 乃 阿 波

身禊祓詞

高天原 爾 神 雷坐 須 神 魯岐神 魯

美 乃 命 以 皇 御祖神 伊耶那岐

命 筑紫日向 乃 橘 乃 小戸 乃 阿波

岐原 爾 御禊祓 開 給 布 時 爾 生坐

雷 祓戸 乃 大神等 諸 乃 枉事 罪穢

乎 祓賜 開 清 米 賜 開 申 須 事 乃 由

乎 天津神 國津神 八百萬 乃 神等

共 爾 聞食 登 恐 美 恐 美 白 須

大祓詞

高天原 仁 神 雷坐 須 皇親神 漏伎

神 漏美 乃 命 以 氏 八 百 萬 乃 神 等

乎 神 集 仁 集 賜 比 神 議 仁 議 賜 氏

我 皇御孫之命 波 豐葦原 乃 水穗

之 國 乎 安國 止 平 久 所 知 食 止 事

依 志 奉 伎 如 此 依 志 奉 志 國 乃 中

仁 荒振神等 乎 神 問 仁 志 問 志 賜 比

神 掃 仁 掃 賜 比 語 問 志 誓 根 封 立

罪つ止と畔放あそちみか溝埋みか樋放ひそち頻蒔まき串刺くし生い

剥むぎ逆剥さか尿戸はぎ許許くそ太久たかく乃の罪つみ天あま

津罪つづ止と宣別のり氏て國津罪くよつづみ波なみ生膚斷いきそ

死膚斷しんそ白人はくじん胡久美こくみ川入かわいれ火燒かや己おのれ

母犯罪ははつみ己子犯罪おのれこ母與子犯罪ははこ子こ

與母犯罪ともつみ畜犯罪けものつみ昆虫けむし乃の災高津わざひたかつ

神かみ乃の災高津鳥わざひたかつとり乃の災畜仆わざひけものたふ志こころ蠱物まじもの

為罪せつづ乎を國津罪くよつづみ止と宣別のり氏て許許太くそた

久く乃の罪出つみいで武む如此出かくいで波なみ天津宮事あまつみやごと

以もち氏て大中臣天津金木おほなかつのちあまつかなぎ乎を本打切もとうちきり

末打斷まきうちた氏て千座ちくら乃の置座おきくら仁に置足おきたら志こころ

天津管曾あまつすがそ乎を本刈斷末刈切もとかりたちまきかりきり氏て

八針やはり仁に取辟とりさき氏て天津祝詞あまつのりと乃の太祝ふとりの

詞事こと乎を宣の礼れ如此宣かくのら波なみ天津神あまつかみ波なみ

天之磐門あめのいもと乎を押披おしひら氏て天之八重雲あめのやへぐも

伊頭いづ乃の千別ちき仁に千別ちき氏て所聞食きこしめさ

武む國津神くよつづかみ波なみ高山之末たかみやまのすえ短山之末みぢみやまのすえ

武む國津神くよつづかみ波なみ高山之末たかみやまのすえ短山之末みぢみやまのすえ

天之磐門 押披 天之八重雲

伊頭 乃千別 千別 所聞食

國津神 高山之末 短山之末

上坐 高山之伊穗理 短山之

伊穗理 撥別 所聞食 如此

所聞食 皇御孫命 朝廷 始

天下四方 乃國 罪 止云 罪

不在 科戸之風 乃天之八重

雲 吹放事之如 朝之御霧 夕

之御霧 朝風 夕風 吹掃事之

如 大津邊 居大船 舳解放

艦解放 大海原 押放事之如

彼方之繁木 本 燒鎌 乃敏

鎌以 打掃事之如 遺罪 不

在 祓賜 清賜事 高山之末

短山之末 佐久那太理 仁水落

瀧津速川 瀨 坐 瀨織津比

咩 云神大海原 持出 如此

如ごと久く。大津邊たつべ 仁に居大船をるねふね 乎を舳解放とまてまち

艦解放とまてまち 氏て大海原たかのうら 仁に押放事之如おまつことごと

久く。彼方之繁木をちうのげき 我が本もと 乎を燒鎌やきがま 乃の敏と

鎌がま以もち 氏て打掃事之如うちまことごと 久く。遺罪のつと 波を不あら

在ト 止と 祓賜をらたま 比ひ清賜事きよたまこと 乎を高山之末たかのすま

短山之末ひきやまのすま 利り與よ。佐久那太理さくなだり 仁に水落みづおち

瀧津速川たぎつはやか 能の瀬せ 仁に坐ま 須す 瀬織津比せたりつひ

咩め 止と 云神大海原いふかみわたのうら 仁に持出もちい 武む奈な。如此かく

持出往もちい 波を荒鹽之鹽あらしほのしほ 乃の八百道やちぢ 乃の

八鹽道やちぢ 乃の鹽しほ 乃の八百會やちあひ 仁に座ま 須す 速はや

開津比咩あきつひめ 止と 云神持可吞いふかもちか 乃の吞のみ 氏て。如かく

此持可吞こもちか 乃の吞のみ 氣吹戸いきふきと 仁に坐ま 須す 氣い

吹戸主ふきとぬし 止と 云神根國底國いふかみのくにそのくに 仁に氣吹いきふき

放はな 武む。如此氣吹放かくいきふきはな 波を根國底國ねのくにそのくに 仁に

坐ま 須す 速佐須良比咩はやさすらひめ 止と 云神持佐いふかもちさ

須良比失すらひし 武む。如此持佐須良比失かくもちさすらひし

波を自今日始みづよりけじめ 氏て。罪止つと 云罪いふつと 波を不在あら

止と 波を 自今日始みづよりけじめ 氏て。罪止つと 云罪いふつと 波を 不在あら

八鹽道やしやぢ乃の鹽しほ乃の八百會やちあひ仁に座ま須す速はや

開津比咩あきつひめ止と云神持可吞りよくもちかゝのみ卒む氏て如か

此持可吞くもちかゝのみ波は氏て氣吹戶いぶきとど仁に坐ま須す氣い

吹戶主ぶきどぬし止と云神根國底國りよかみねのくにそのくみ仁に氣吹いぶき

放はな武む氏て如此氣吹放かくいぶきをなちて根國底國ねのくみそのくみ仁に

坐ま須す速佐須良比咩はやさすらひめ止と云神持佐いよのくもちさ

須良比失すらひしなひて武む氏て如此持佐須良比失かくもちさすらひしなひ

波は氏て自今日始けふけりけじめ氏て罪つみ止と云罪りよつみ波は不在あらず

止と祓賜はらたま比ひ清賜事きよたまふこと乎を所聞食まきこめせ止と申まを

須す。

明治十九年九月一日出版御届濟

定價拾錢

岡山縣士族

編纂著述兼出版人 芳村正秉

神田區今川小路二丁目

五番地寄留

內藤存守筆

瀧澤篁吉刀

